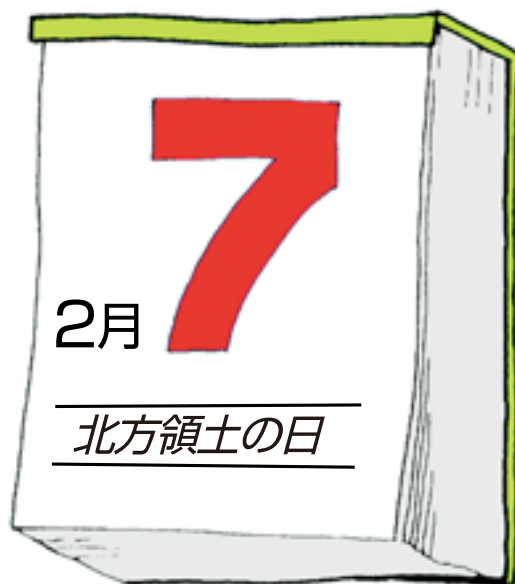


北方領土の日

2月7日は「北方領土の日」です。1855年（安政元年）の2月7日、「日魯通好条約」が結ばれました。平和のうちに択捉島とウルップ島の間に国境を定め、日本とロシアとの国境が国際的にも明らかにされた歴史的な意義を持つ日です。

「北方領土の日」を中心に全国で集会、キャラバン、署名運動などさまざまな行事が行われています。



▼ 北方領土返還祈念シンボル像「四島のかけ橋」(根室市/納沙布岬)



さまざまな返還要求運動

北海道で灯された北方領土返還要求運動の灯は、全国各地に広がりました。長い間この問題に取り組んできた青年団体、婦人団体、労働団体をはじめ、47都道府県民会議及び北方領土返還要求運動連絡協議会などを基盤として、さまざまな運動が展開されています。



▲ 北方領土返還要求全国大会



▲ マラソン大会



▲ パネル展示



▲ 現地集会（納沙布岬）



▲ 街頭啓発



▲ 署名活動

若い世代への運動の継承

戦後すでに半世紀をこえる年月が過ぎていきます。国民の半分以上が戦争体験のない世代となった今、若い人たちに北方領土の問題を

正しく理解し、返還要求の運動を引継いでもらうことがとても大切です。そのために研修会などが行われています。

教育者会議

北方領土問題教育者会議は、児童・生徒へ北方領土問題の授業や課外活動などを実践しています。また、領土問題に関する学習資料等の共有を図るとともに、青少年への指導教育の充実を目指しています。

青少年・教育指導者現地研修会

毎年、根室市において先生と生徒による合同研修会が開催されています。納沙布岬から北方領土を指呼の間に見て、元居住者の体験を聞き、参加者は、学んだことを広く「伝える」ための活動をしています。

北方少年交流

北海道根室管内の北方領土元居住者の三世・四世や北方領土問題に関心の高い中学生が上京し、内閣総理大臣などを訪問して北方領土の早期返還を訴えるとともに、同世代の少年たちと交流を行っています。



▲ 北方少年交流（総理大臣官邸）



▲ 大学生による北方領土ゼミナール（根室市）



▲ 青少年・教育指導者現地研修会（模擬授業・壁新聞づくり）▲

壁新聞優秀作品 (中学生)

全国民の北方領土問題

～ 私達に出来る返還運動 ～ 平成23年 8月20日

〈北方領土とは？〉

日本固有の領土

現在ロシア人が住んでいる!!



択捉島:	面積 3,184 km ²	人口 6,157人
国後島:	面積 1,499 km ²	人口 6,937人
色丹島:	面積 253 km ²	人口 3,252人
歯舞群島:	面積 100 km ²	人口 国境警備隊員が駐留

北方領土の島々には、沢山の動物達が住んでいる。キツネ、アザラシ、オットセイ、トドなどのほか、国後島、択捉島では森林に豊茂しているヒグマなども住んでいる。またエゾビロカ、エゾライオン、オジロツバなどの珍しい鳥も見ることが出来る。北方領土周辺の海では、暖流と寒流が交わっていて、**世界三大漁場**の一つになっている。特にサケ、マス、ワラ、ワラバガニ、ハブサキガニ、コンブ、ウニ、ホタテなどの宝庫である。

約65年前までは多くの日本人が北方領土に住んでいたのに、なぜ今はロシア人が住んでいないのだろうか？

〈不法占拠された日本の領土〉

第二次世界大戦末期の1945年8月9日、ソ連は当時まだ有効だった**日ソ中立条約**を一方的に破棄して対日参戦した。ソ連軍は、終戦後の8月18日より千島列島への攻撃を開始し、ウルップ島に侵攻したが、そこから北に引き退いた。その後遅くとも9月5日までに千島列島のみならず北方領土も占領したのである。そして65年たった今でもロシアに占領され続けている。日本人は返還運動を行っているが、一向に解決への糸口は見つからない。

〈今回の経験を通して...〉

私は中学1年の時から北方領土問題について関心を持っていた。そして去年、念願の「少年少女北方領土研修」に行ってきた。そこで私はさまざまな事を学び、もっと深く知りたいと思うようになった。今回はその夢が叶い、とても貴重な体験をさせてもらった。この体験を忘れずに、これからも北方領土問題について、考えていきたいと思う。

〈自分自身の思い〉 ～ 私達に出来る事 ～

両国の考えをみると、互いの主張がくい違っている事が分かる。これは十分な話し合いが両国間と出来ていないからだ。私は考える。このままでは、北方領土問題は解決しない。まずは話し合いをしかりするべきだ。しかし、私達が行う返還への熱い思いを発信していかなければ何も変わらない。そのため、今回北方領土についていろいろな事を学んだ私達が率先して返還運動をしていきたい。私達出来る事。それは、まだ北方領土について詳しく知らない人達に教えてあげ、一人一人が声をあげる事だと考える。そうすればきっと私達の思いが大きなエネルギーとなり、日本政府の背中を押せるような原動力となるに違いない。1日でも早く、両国の納得のいく話し合いが行われる事を私は信じる。

〈両国の考え〉

日本側: 1855年の**日露和親条約**で択捉島以南が日本領となっている。1875年の**樺太・千島交換条約**で**ウラップ島以北を千島列島**としている。日ソ中立条約は1946年4月まで有効であり、ソ連が日ソ中立条約を一方的に破棄し、北方領土を含む千島列島・南樺太などへの侵攻は**重大な条約違反**。日本のポツダム宣言受諾後、ソ連が一方的に侵攻継続した事実は日本領土への新たな侵略である。日本はサンフランシスコ講和条約に調印し、千島列島・南樺太を放棄したが、**日本が放棄した千島列島に北方領土が含まれていない。** など

ロシア側: 明治初年に導入された旧国制度では、国後島までが千島国とされた。ヤルタ会談で、ソ連の参戦や戦後の千島列島・南樺太割譲は**米英両国に押し承諾されている。** 進撃開始は日ソ中立条約の破棄を日本国駐ソ大使に宣言した後、**条約破棄の伝達が遅れたのは、日本政府の遅延が遅れただけに過ぎない。** サンフランシスコ講和条約において**日本は千島列島を放棄している。** 当時の日本国の辞書では**択捉島と国後島を南千島**として表記している。 など

心を1つに「全国民の問題」をみんなで解決させよう!

壁新聞優秀作品 (高校生)

なるほど!

北方領土新聞

し、かりんがで
伝ふわ!!

知ってござろう

北方領土基礎知識

●北方四島とは?

「北方領土」とは、北海道の根室半島に隣接する歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島の四つの島々のことです。これらの島々について、ほとんどの人は北の小さな島々だと思いがちですが、もしもこれらがもともとは近い歯舞群島の貝殻島まで、北海道本島からわずか三・七キロに離れておらず、堪美海峡で対峙する、さりとて見ることができるといわれています。北方領土とはこんな近くにある島々なのです。

また、北方領土はたいへん自然に恵まれた豊かな島々で、オウギノエ、アヤラシ、オトでイ、トドなどたくさんの動物たちが住んでいます。



全部で福岡県と同じくらい広い。

平成23年
9月20日(土)

賞えよう。

二回目は
北方領土の日

どうして今のままだ
なってしまうのだろうか?

不法占拠された「日本の領土」

第2次世界大戦末期の1945年8月9日、ソ連は当時まだ有効だった「日ソ中立条約」(1941年締結)を一方向的に破棄して対日攻撃戦しました。ソ連軍は、終戦後の8月18日より千島列島の攻撃を開始し、ウルップ島まで侵襲しました。そこから北に引き返しました。しかし、択捉島以南にアメリカ軍が進軍していきなり、別の隊が、同年8月1日、択捉島、9月1日、国後島、10月1日、色丹島、10月1日、歯舞群島をそれぞれ武力で占領し、遅くとも9月5日までに千島列島のおおむね、北方四島をも占領したとされています。

まよめ

●北方領土問題青少年現地学習会が学んだこと

北方四島の現状

択捉島、国後島、色丹島には約16,346人のロシア人が住んでいます。小中高校を一貫した教育制度もあります。多くのロシア人の方々は北方領土に住んでいるが、ロシア政府は2007年から2015年までに約481億円(2010.12現在)の投資を四島等の社会・経済開発に投入する計画であるものの、道路修理、港湾整備、ヘリポートの建設などの社会基盤整備が行われていません。

●北方領土に対する思い

北海道から遠く離れた所に住んでいる人は、あまり関心がなく、実感がわかない問題であるかもしれません。しかし北方領土問題は今の現在も苦しんでいる人達に、懸命な返還運動が行われています。私達もこれと共に関心を持てようと思います。

北方四島在住ロシア人との 相互交流が行われています

北方四島の早期返還を実現するためには、日本・ロシアの人々が領土問題についての考え方、お互いの生活、文化、習慣などを理解しあうことが必要であることから、1992年（平成4年）4月から旅券・査証なしで日本人と四島在住ロシア人との交流、対話の道が開かれました。

すでに北方領土元居住者、返還要求運動関係者などが北方四島を訪問し、また北方四島在住ロシア人が全国各地を訪れ相互交流が行われています。



▲色丹島での歓迎式



▲訪問（ホームビジット・意見交換・グランドゴルフ）▲



▲受入（折り紙・民謡の練習）▲

青少年の相互交流も行われています

1993年（平成5年）から日本人青少年（中学生・高校生）と北方四島在住ロシア人の青少年との間でも相互交流が行われ、意見交換やスポーツ・ゲーム等を通じて友情を深めています。



▲受入（意見交換・茶道交流）▲



▲訪問（折り紙・スポーツ交流）▲

望郷の思い ～北方領土への墓参・自由訪問～

北方領土に住んでいた人たちは、北方領土問題が未解決であることから、戦後、長い間、北方領土に残してきた祖先の墓にお参りすることができませんでした。しかし、墓参りは人道上の問題であるとして交渉を続けた結果、身分証明書による渡航方式により墓参が実施できるようになりました。また、平成11年から元居住者及びその家族による最大限簡素化された訪問（いわゆる自由訪問）が実施されています。

▼居住地跡を散策する訪問団（自由訪問：志発島）



▼国後島（礼文磯）



▼択捉島（ポンヤリ墓地）



北方領土を望む施設

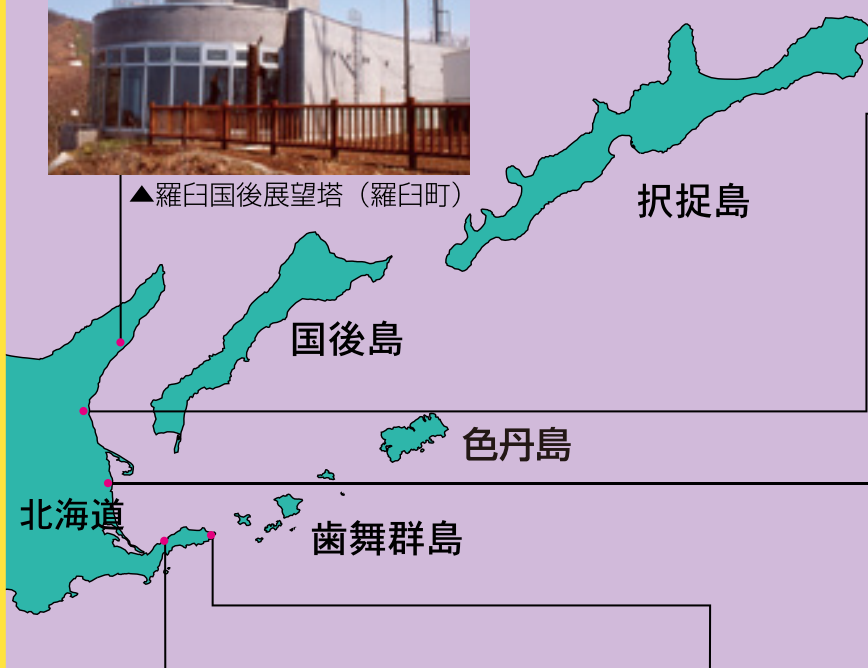
北海道根室地域には、北方領土を望む施設や返還を祈念する公園などがつくられています。

北方領土を実際に目で見ることにより、返還への思いを新たにしましょう！

望郷の岬公園全景（根室市/納沙布岬）▶



▲羅臼国後展望塔（羅臼町）



▲北方領土館（標津町）



▲別海北方展望塔（別海町）



▲北方四島交流センター「ニホロ」（根室市）



▲北方館（右）と望郷の家（根室市/納沙布岬）



▲北方領土返還祈念シンボル像「四島のかけ橋」（根室市/納沙布岬）

主な返還要求運動推進団体の活動

北方領土返還要求運動 都道府県民会議 (通称「県民会議」)	県民会議は、地域における住民の声を結集し、さらに、多くの住民が北方領土返還要求運動に参加できる組織として全都道府県に設置されており、地域の青年団体、婦人団体、労働団体、経済団体、行政機関などにより構成されています。 現在、これらの県民会議は、地域における北方領土返還要求運動の推進基盤として、県民大会、街頭啓発、県内キャラバン、研修会など、さまざまな活動を展開しており、地域における運動の推進に大きな役割を果たしています。 また、北方領土問題教育者会議と連携して後継者の育成に努めています。
北方領土返還要求運動 連絡協議会 (通称「北連協」)	北連協は、北方領土の返還の実現を目指して常時全国的な活動を行っている青年団体、婦人団体、労働団体、経済団体その他各種団体からなる集合体として組織されたものです。現在、およそ70団体が加盟しており、北方領土返還要求運動に関する連絡、協議および各種情報等の交換などのほか、北方領土返還要求全国大会の開催、政府に対する要請、国会への署名請願などを行っています。また、各団体ごとに活発な活動を展開しています。
北方領土問題対策協会 (通称「北対協」)	北対協は、全国的な規模で北方領土問題に対する国民の理解を求めるための活動を展開すると共に、北方領土元居住者などに対する援護対策を行うことを目的に、昭和44年に特殊法人として設立され、平成15年に独立行政法人に改組されました。 北対協は、パンフレットや啓発用品の作成、配布のほか、返還要求運動を推進している各団体や県民会議と協力して、大会やパネル展示、研修会などを開催しています。また、地域における返還要求運動を推進するため、各都道府県に「推進委員」を置き、県民会議などと連携してその活動の強化を図っています。さらに日本人と四島在住ロシア人との相互交流事業（ビザなし交流事業）も実施しています。
千島歯舞諸島居住者連盟 (通称「千島連盟」)	千島連盟は、昭和33年、内閣総理大臣の許可を受けて設立された北方領土元居住者を会員とする社団法人です。 千島連盟は、署名運動、機関紙・啓発資料の発行、研修会などの開催のほか、後継者の育成や戦前の島の様子や暮らし、島を追われた体験などを語り継ぐ「北方領土の語り部」の派遣などを実施しているほか、平成11年からは元居住者及びその家族による最大限簡素化された訪問事業である自由訪問事業も実施しています。
北方領土復帰期成同盟 (通称「北方同盟」)	北方同盟は、北海道内の市長会、町村会、各種産業団体などを構成員として昭和40年、外務大臣の許可を受けて設立された社団法人です。 北方同盟は、主として北海道内において、署名運動、パンフレットなど啓発資料の発行、弁論大会、外交シンポジウムなどを開催しています。